

PRESS RELEASE

国際交流 NGO「ピースボート」



〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561

FAX: 03-3363-7562

MAIL: info@peaceboat.gr.jp

URL: www.peaceboat.org/

東日本大震災 ピースボート・ボランティア関連情報

2011年5月22日

津波の経験を活かし、日本への恩返しを スリランカのボランティアチームが、宮城県石巻で大活躍中!

国際 NGO ピースボートでは、東日本大震災発生以降、宮城県石巻市を中心に、被災地で支援活動を行うボランティア派遣をコーディネートしてきました。その数はすでに 2,000 を越えますが、その中には 200 名以上の国際ボランティアも含まれます。現在、駐日スリランカ大使館・外務省を通じて、スリランカ政府から派遣された災害管理省職員ボランティアチーム 15 名が、ピースボートがコーディネートする形で石巻市内で活動していますが、スマトラ沖の津波被害経験を持つ国の出身ということもあり、現地での彼らの活躍は非常に大きな力になっています。スリランカチームは、6月2日まで石巻に滞在します。

東日本大震災では、多くの海外支援の申し出がありました。専門家や現場活動者の中には、「日本は、海外にて多くの支援を行ってきたが、今回のような海外からの支援を受けることに慣れておらず、受け入れに戸惑いがあった」と言う人もいます。しかし「恩返しをしたい」「経験を生かしたい」というスリランカボランティアチームのように、国際ボランティアチームは実際に大きな活躍を見せています。

● 同じ被害を受けた国として

2004年12月26日、インドネシア西部・スマトラ沖地震が起こり、死者は総勢22万人を上回り、スリランカに到達した津波では、死者・行方不明者は約3万6人を数えました。今回来日したスリランカチームは、その復興作業を手掛けた豊かな経験を生かして、東日本大震災の復興の力になろうと、在日スリランカ大使館の手配で来日。チームリーダーとして、同じく石巻で活動する外国人タレントのアントン・ウィッキーさん(スリランカ出身)は、「津波の被害はまったく同じです。僕らには同じ経験があるから、被災者たちがどのように困っているのか、どのようにしてほしいのかがよく分かります」と語ります。

● 多種多様なバックグラウンドを持つメンバー

この15名のメンバーは、今回はスリランカ政府からの公式ボランティアとして派遣されています。出身地・職種はまちまちで、重機オペレーター、電気技師、通信兵のほか、食事をつくるシェフ、ギター・太鼓のできる方など、多彩な能力を持ち合わせ、発揮しています。被害状況がひどい石巻市中浦町の一般家屋では、ボランティアでは対応できないと一度断られた瓦礫撤去も、屈強なスリランカチームによって撤去が実現しました。避難所の湊小学校では、スリランカ音楽のコンサートも行いました。駆けつけた在日スリランカ大使は、「スマトラ沖地震の際に一番早く駆けつけてくれたのは日本の医療団だったことをよく覚えています。早く恩返しをしたいと思っていました」と挨拶されました。

被災地への国際支援について考える機会であるとともに、継続した世界からの応援と協力が1日も早い復興への力になります。本件に関する取材・報道など、後方支援のほどよろしくお願い申し上げます。

● このリリースに関するお問い合わせは、

ピースボート事務局 担当:松村/合田(ごうだ)

TEL:03-3363-7967 携帯:090-9407-1256(松村) FAX:03-3363-7562 E-mail:kyuen@peaceboat.gr.jp